

「中堅・中小企業海外安全対策ネットワーク」第9回本会合
宮路拓馬外務副大臣 挨拶

本日は「中堅・中小企業海外安全対策ネットワーク」第9回本会合に御出席いただき、心から御礼申し上げます。

本ネットワークは、2016年のダッカ事件を教訓に立ち上げられたものです。発足以来、皆様と共に、中堅・中小企業関係者が直面する課題を把握しながら、安全対策の強化を促進すべく、真剣に取り組んでまいりました。

現在、国際社会は分断と対立が進み、海外における治安情勢も一層不透明になっています。世界中の様々な国・地域で、政情不安や紛争、災害、テロ等、日本人がいつ巻き込まれてもおかしくはない事件や事故が、依然として数多く発生しています。

実際、昨年4月には、パキスタン・カラチで、日本人複数名が乗った車列が襲撃を受け、日本人1名が負傷するテロ事案が発生しました。

そのような中、昨年、邦人の出国者数が5年ぶりに1千万人を超えるなど、国際的な人の往来は着実に回復しており、これに伴い、邦人が海外で事件・事故に遭遇する蓋然性も高まっています。

そのため、テロを含む海外における安全対策の重要性を定期的に再確認する必要があります、本ネットワークはその重要な機会となっています。

ご案内のとおり、日本企業の約99%が中堅・中小企業です。私の出身地である鹿児島県でも従業員総数の9割以上が中小企業に所属しています。その事実からも明らかなように、日本経済を支えているのは中堅・中小企業であり、政府としても、石破内閣が策定した「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」に沿って、中堅・中小企業の海外展開を支援していく考えです。

海外展開の基盤となるのが、海外ビジネスを安心して行うための安全対策です。一方、中堅・中小企業の中には、資金不足等から海外展開において大企業と同等の安全対策を取ることが難しいという問題に直面している企業もあります。

このような企業を念頭に、外務省は、必要な安全対策をとる一助となる情報や機会を提供してきており、これからも中堅・中小企業の目線に立った海外安全情報の発信や支援策を実施していきます。

終わりに、本日の会議が有意義なものとなることを祈念するとともに、皆様の引き続きの御協力をお願いし、私の挨拶に代えさせていただきます。

(了)